

良識ある保守主義・情報公開

吉田つとむ

町田市議会議員 5期連続トップ当選

<編集発行>

〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361(fax 兼用)
市議会議員 吉田つとむ
yoshidaben@gmail.com



当初予算の特徴を挙げてみる

今年度当初予算案は、石阪前市長が作成したもの

2月15日、町田市長・市議選があり、市長には、稲垣康治候補が当選となりました。ただし、任期は3月9日からであり、今年初の第1回の定例会は3月2日告示となっており、議会を招集したのも、その予算案を作成提案したのは石阪前市長でした。

通常、こうした市長の交代期には、政策的な予算編成を外して暫定予算を組むものですが、石阪前市長の観点では、工芸美術館の建設や学校の統廃合事業は既定の路線として新年度予算にも盛り込まれていました。稲垣市長は、石阪前市長を受け継ぐ立場と、市民の声を聞いて市政を進める双方の側面を明らかにしていますが、次回の第2定例会の所信表明、あるいは自らが作成した補正予算の中身も加味して見解を述べたいと思います。



先に上げた、工芸美術館の建設や学校の統廃合事業に関して、無所属会派は、内容に疑義を提唱したり、その予算案には修正案を提案してきており、石阪前市長が進めた工芸美術館建設は毎回契約者がまとまらない事態が繰り返され、無所属会派のその部分を削除した予算修正案の正しさを表わしたものでした。(次号以降に決定記事を掲載予定)

今期の一般質問は会期末(3月30日まで)

今議会の一般質問日は、3月26日~30日と短縮

今回の議会は、改選議会でスタートが3月9日となっており、しかも人事(議長選出)から始まります。そのために、一般には、規則で仮の議長(一番年長)が議長席に座って、議長を選挙で選ぶルールになっており、前議会から年長の吉田つとむが、その仮議長を務めています。自身では6期目に選挙で議長に選出され、その役目を果たしています。再度、務めたいと考えることもあります。ハードルは極めて高いものです。

町田市議会会派の集合離散に驚嘆する

上位当選した国民民主党公認議員が、いきなり別グループに参加して驚きました。次いで、自民党系は、自民党と名乗る会派と、その名前を使わないグループが一人当選党派の6議員を加え、相応の勢力になりました。また、自民公認でも諸派(どの会派にも属しない)となる議員もありました。また、維新は2名ですが、一人は自民会派と合流で、維新を加えた会派名に決まりました(3月6日現在)で、これから先も変調があるかも知れません。無所属会派は、3名から1名(最年少の長谷川圭亮さん)増えて4名となり、全常任委員会にメンバーを出せることになりました。



正副議長やその他の人事内容は次号に掲載見込です

○支持政党なしの方々の代表=吉田つとむの基本理念は、良識ある保守主義です。

○吉田つとむは、「若者育成」をトップの政策に掲げています。

◎町田発技術を駆使使用した水耕栽培メロン 全国に広がる産地を結集、まずは日本一を決める

吉田つとむが所属する会派は、1名増えて4名になり、全常任委員会にメンバーが配属される。

若い世代の育成に全力をささげる

町田市議会議員(支持政党なしの方々の代表)

吉田つとむ



ブログ 個人HP



メールは
左記を読込
して送信



好評インターンシップは、第57期生が先行スタート。

タブレットを使う電子投票(宮崎県新富町)

九州では初めてとなる電子投票選挙を視察

電子投票選挙が最初に導入されたのは、岡山県新見市の2002年の市長・市議選挙で、その後、順調の全国に広がりました。岐阜県可児市の市議選では複数の電子投票機の投票データ記録がサーバーのMOに記録する方式が採用され、オーバーヒートして投票が大きく中断し、帰ってしまった人が多数出た結果、選挙無効の裁判結果が生じ、電子投票選挙の動向が一挙に無くなってしまいました。

専用機でなくても可とする新たな基準に沿って、2024年12月、大阪府四條畷市の市長・市議補選に、電子投票選挙が再導入され、無事に終了しました。メーカーは、新規参入の「京セラ」でした。タブレットを用い、片手で投票操作ができる特徴があり、記録はタブレット1台に1基のUSBメモリー(補助に1枚のSDカード記録)という、スタンドアローン(PC、機器、ソフトウェアがインターネットやLANなどの外部ネットワーク・他のシステムに依存せず、単独で機能する状態)に由来に戻りました。

この成果を踏まえ、2026年3月1日、宮崎県新富町において、この電子投票方式が再び採用され、無事に投票を終えました。(続く)

投票所内で視察、顔や投票内容を写さない



電子投票選挙普及の明るい展望

宮崎県新富町では、町長選挙が無投票でしたが、町議補選が実施され、2名が立候補していました。有権者数13,409人、投票率27.31%で投票総数3663票というものでした。やぎ直美氏が2,517票を得て、当選者に決まりました。



開票作業の職員は4分の1の12名であった

この日の選挙では、朝一のゼロ票確認から投票所の外で、投票者の来場を待ち受け、他の見学者らと視察を行いました。大半の有権者が車で来場する投票所でしたが、高齢者も「楽に選挙ができた」、「スムーズに投票ができた」という声ばかりでした。他の投票所では、子ども連れた家族連れも目立ちました。開票は全体としてとてもスムーズであり、電子投票分の読み取り作業は20分、全体の開票発表は手間取っても合計44分でした。この宮崎県新富町の電子投票選挙には大勢の視察見学者がありました。各地の選挙管理委員会の皆さんと3名の地方議員、それにTVと新聞記者多数が参加しました。その中には、2自治体(町長選を予定している町と、県知事選で当該の1市のみで実施する)というもので、私もその方々取材しました。それらの方々の一番の心配は、無投票になって手配した電子投票機が不要になることでした。

◎吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、2026年1月末までに115名が参加しています。

◎57期生として、私立高校2年生の「古閑永都」さんのインターン研修体験記を掲載中です。講義が中心ですが、視察見学記も加えています。

*次期のインターンシップは、2026年春季第57期の受け入れで照会中です。